

第2次福生市環境基本計画へ向けた市民提言

福生市環境基本計画市民会議

令和5年7月

目次

1. 検討経過.....	2
(1)会議の位置付け・役割.....	2
(2)委員名簿.....	3
(3)開催経過.....	4
市民会議メンバーが考える、福生市の地域特性.....	6
2. 分野別施策に対する提言.....	7
(1)資源循環・廃棄物処理分野.....	7
現状と課題.....	7
目指したい姿.....	8
これから必要な取組.....	9
(2)生物多様性・自然環境分野.....	14
現状と課題.....	14
目指したい姿.....	15
これから必要な取組.....	16
(3)気候変動・エネルギー分野.....	21
現状と課題.....	21
目指したい姿.....	22
これから必要な取組.....	23
(4)景観・美観・公害対策分野.....	27
現状と課題.....	27
目指したい姿.....	27
これから必要な取組.....	28
(5)全分野共通.....	33
現状と課題.....	33
目指したい姿.....	34
これから必要な取組.....	34
付録 市民会議メンバーからのメッセージ.....	37

(1) 会議の位置付け・役割

環境基本計画の改定に対して市民の意見を反映するため、令和4年12月に「福生市環境基本計画市民会議(以下、「市民会議」)」を設置しました。

市民会議は、市民の目線で現状を捉え、望ましい将来像とそこに至るために必要な取組のアイデアを検討するための会議体です。

市民会議では、次の資料等から得た情報を基にして、環境政策のテーマごとに①現状と課題、②望ましい将来像(2050年頃/今から約10年後)、③現状と将来像のギャップを埋めるために必要な取組について検討を重ねました。

市民会議の検討に活用した資料等

- ・ 環境に関する市民アンケート調査(令和4年9月～10月実施) 集計結果
- ・ 関係課ヒアリング(環境政策課を中心に令和4年10～11月実施)
- ・ 専門家からのミニレクチャー(第1回会議)
- ・ 視察研修(第3回会議、武蔵野市)

市民会議での検討結果は、「第2次福生市環境基本計画へ向けた市民提言(本提言)」として取りまとめました。分野ごとの施策・事業の方向性を検討するにあたって大切にしていきたい考え方や、新規取組のアイデアなどを数多く盛り込んでいます。

市行政の機構や都・国等との所管などの制約から、現状のシステムでは実現が難しいと思われるものも、あえて意識的に残しました。市民会議の議論では、バックキャスト(望ましい将来を起点に目標や具体的施策を考える)による発想を重視したためです。望ましい未来に向けて必要な動きを、大胆な改革を含めて実現していただきたい、との思いをこめています。

庁内で第2次環境基本計画の策定作業が行われる際には、本提言の内容を盛り込み、市民意見を十分に反映した計画が策定されることを期待します。さらに、第2次環境基本計画の施策・事業を実施していく上で、本提言に記載された個別の具体的なアイデアを参考に、挑戦的な動きが展開されることを願います。

(2) 委員名簿

(五十音順)

氏名	備考(環境に関する市民活動等)
池田昌三	公募による参加
伊東静一	NPO 法人自然環境アカデミーなど
岩尾俊二	公募による参加
大井翔子	福生市環境マネジメントシステム F-e 市民監査委員など
砥綿潤	ふっさ環境市民会議など
中村幸一	公募による参加
双木邦夫	ふっさ環境市民会議など
古山幸司	ふっさ環境市民会議など
正木直美	公募による参加
山本忠	ふっさ環境市民会議など

(3)開催経過

第1回（現状を知る）

日時 令和4年12月9日(金) 午後2時から午後4時45分

場所 福生市さくら会館2階 第4集会室

- 議題 ①情報提供「福生市環境基本計画について、市民会議の役割と進め方」
②自己紹介
③環境政策に関する最新動向(専門家からのオンライン・ミニレクチャー)
④(ミニレクチャーに関する)意見交換

第2回（将来をイメージする）

日時 令和4年12月26日(月)午後1時15分から午後3時15分まで

場所 福生市もくせい会館2階 201 会議室

- 議題 ①情報提供「2050年頃の未来予測」
②グループワーク「2050年の福生の望ましい社会・暮らしの様子をイメージする」
③グループワーク「2035年ごろに目指したい環境のすがたをイメージする」

第3回（先行例を知る）

日時 令和5年1月26日(木)午後1時30分から午後4時30分まで

場所 むさしのエコreゾート(環境啓発施設)、武蔵野クリーンセンター

内容 各施設の見学、エコreゾートの成り立ち・活動、市民協働での啓発活動の実情、武蔵野市の環境施策・気候市民会議の講義等

第4回（プラン検討:資源循環・廃棄物処理について）

日時 令和5年3月3日(金)午前9時30分から午前11時30分まで

場所 福生市もくせい会館2階 202 会議室

- 議題 ①武蔵野市視察内容の報告
②グループワーク「目指したい将来と現状のギャップを整理する」
③グループワーク「ギャップを埋めるために必要な取組を考える」
④結果共有（共感する取組にシール投票）

第5回（プラン検討:生物多様性・自然環境について）

日時 令和5年3月17日(金)午前10時から正午まで

場所 福生市もくせい会館3階 302 会議室

- 議題 ①グループワーク「目指したい将来と現状のギャップを整理する」
②グループワーク「ギャップを埋めるために必要な取組を考える」
③結果共有（共感する取組にシール投票）

※終了後、午後に有志で福生市リサイクルセンターの見学を実施

第6回（プラン検討:気候変動・エネルギーについて）

日 時 令和5年4月7日(金)午後2時から4時まで

場 所 福生市民会館3階 第3集会室

- 議 題 ①グループワーク「目指したい将来と現状のギャップを整理する」
②グループワーク「ギャップを埋めるために必要な取組を考える」
③結果共有（共感する取組にシール投票）

第7回（プラン検討:景観・美観・公害対策について）

日 時 令和5年4月20日(木)午前9時15分から11時30分まで

場 所 福生市民会館3階 第4・5集会室

- 議 題 ①グループワーク「目指したい将来と現状のギャップを整理する」
②グループワーク「ギャップを埋めるために必要な取組を考える」
③結果共有（共感する取組にシール投票）

第8回（市関係課との意見交換会／プラン再検討）

日 時 令和5年5月10日(水)午前10時から12時まで／午後1時から3時30分まで

場 所 福生市役所第一棟2階 第1・2会議室

- 議 題 午前の部 ①市民会議の経過説明
②市民提言案のプレゼンテーションと関係課からのコメント
午後の部 ①意見交換会の振り返り
②関係課意見に対する対応の検討
※終了後、1週間程度の期間を設けて各委員からの意見を集約

第9回（プラン再検討）

日 時 令和5年6月1日(木)午前9時から11時まで

場 所 もくせい会館2階 203会議室

議 題 市民提言案のブラッシュアップ

次章では、第4回から9回の作業結果を基に文章化した、分野別の将来像や具体的取組のアイデアをまとめています。

なお市民会議では、令和5年度中に開催する第10回会議において「市民プロジェクト」について検討し、第2次環境基本計画を市民サイドから推進していく計画です。

市民会議メンバーが考える、福生市の地域特性

第4回から第7回の「プラン検討」では、各回の検討テーマを環境政策の主要な分野から設定しました。第2回会議で出された「2050年／2030年頃の将来像」をベースに、各分野で達成したい将来の姿のイメージを具体化し、次に現状の課題や市の施策について整理しました。その上で、将来像と現状のギャップを埋める方策として、市全体（行政）／市民／事業者がそれぞれ実践すべき動きを出し合うグループワークを行いました。

第4回から第7回会議における分野別グループワークで「現状と課題」を話し合う中で、全分野にまたがる市の全般的な社会・経済的特性に関して、次のような意見が出されました。

（1）社会的特性

- ・ 人口減少、少子高齢化の傾向があり、将来的には空家の増加も想定される。
- ・ 外国人住民の比率が高く、増加傾向にある。
- ・ 横田基地を抱えていることにより、文化的・経済的に大きな影響を受けている。国際交流都市として打ち出せるポテンシャルは高いと期待できる。
- ・ 町会・自治会を中心とした地域活動が続いてきた。しかし加入率は低下しており、新規加入がしにくい状況がある。特に若い世代でこの傾向が強い。
- ・ JR3路線5駅が存在し、路線バス、福祉バスも走っているが、各交通機関が連携している状況にはない。

（2）経済的特性

- ・ 特徴的な産業がなく、大規模な事業者が存在しない。
- ・ 商業の中心は福生駅周辺、銀座通りと、国道16号線沿いの店舗群である。それぞれに成り立ちの異なる商店街組合・商栄会がある。
- ・ 生活に近いところで展開される事業活動（商売）が中心的と言える。
- ・ 一方で、都区内など遠方の勤務地に通勤する会社員も少なくなく、特に勤労世代は地域とのつながりを持つ機会がない、あるいは機会を持つ余裕がない生活スタイルになっていると考えられる。

第4回以降の会議では、こうした福生市の社会・経済的特性も意識しながら議論を進めました。

(1) 資源循環・廃棄物処理分野

現状と課題

【プラスチック類について】

- ・ 市内では容器包装プラスチック類、ペットボトルは資源として無料で収集されています。
- ・ ペットボトルのキャップやラベルがついたままであったり、容器包装プラスチック、製品プラスチック(硬質プラスチック)などが正確に分別されていない状況が見受けられます。分別ルールの徹底が必要です。
- ・ 利便性が高いため、あらゆる場面で使われており、プラスチックごみの発生量を抑えることが難しい状況があります。
- ・ 総菜などの購入機会が多いことから、プラスチックごみが多くなりがちな生活スタイルがあると考えられます。
- ・ 必要とする製品(中身)だけを購入する、無駄なものを買わないという、買い物段階での工夫が必要です。
- ・ 生産者側の問題として、分別しにくい製品が出回っていることも大きな課題です。

【生ごみ・バイオマスについて】

- ・ 家庭における生ごみ削減対策として、コンポスト貸与制度と電気式生ごみ処理機の補助制度があり、毎年一定の利用があります。
- ・ 電気式生ごみ処理機については、地球温暖化対策を意識してコンポストの活用にシフトすることも検討が必要です。
- ・ 令和4年度からはフードドライブの活動が強化されています。
- ・ 竹や草などはバイオマスとして活用可能な資源ですが、「雑木・雑草」として収集され、有効に活用されていない状況です。
- ・ インターネットの普及により新聞紙・雑誌などの古紙を出す量が減っていると感じられます。情報化が進むことで、古紙排出量がさらに減っていくと考えられます。

【資源回収について】

- ・ 町会・自治会等による資源物回収活動が行われていますが、高齢化と働く高齢者の増加により資源回収を取りやめるところが増えています。町会・自治会加入率が減少している中、今後の継続が課題です。
- ・ 町会・自治会の活動が見えにくい、活動するメンバーが固定化しているなど、新規加入がしにくい状況があると考えられます。

- ・ (家電リサイクル法に該当しない)小型家電が収集されており、燃やせないごみや粗大ごみで回収されたものからも資源物を取り出して販売されています。しかし、時勢によっては逆有償(費用を払って処分する)になることもあります。

【収集体制全般について】

- ・ 現行の収集体制については、市民の全般的な満足度は高いようです。分別の種類が細かく、資源物がしっかり回収される状況であることが高評価の一因と考えられます。
- ・ 朝 8 時までに出すルールですが、夜から朝にかけて勤務している方や、親の世話などのために子供が勤務後に立ち寄る高齢世帯の方などの、様々な事情で、朝にごみ出しができない方もいるようです。この時間を過ぎてしまった時や収集車が来た後などに、公園やコンビニなどのごみ箱などに捨ててしまう人もいようで、店舗スタッフの方の大きな負担になっているように感じられます。
- ・ 外国人住民の割合が高いという福生市の特性から、分別ルールの周知に課題があります。学生専用と思われるアパートや、管理人が常駐しないマンションでのごみの出し方にも課題が多いように見受けられます。
- ・ 小学校では、副読本を活用したりリサイクルセンターを見学したりと、毎年継続してごみ・資源の学習が行われています。

目指したい姿

【2050 年頃の将来像】

- ・ 一般ごみは 100%リサイクルされている
- ・ プラスチック由来の海ごみ問題は解決している
 - ✓ プラスチックが自然にリサイクルされる仕組みが出来上がっている
 - ✓ プラスチックに代わる素材が安く使える
 - ✓ プラスチックなどの廃棄物が海に流出することが徹底して抑制されている

【10 年後に達成したい状態】

- ・ プラスチックの再資源化拠点ができている
(関連するアイデア例)
 - ✓ 選別施設がある
 - ✓ 公共施設の建て替えなど再編のタイミング等で跡地を利用し、プラスチックのリサイクル工場を作る
 - ✓ 近隣市町村と連携して施設整備する
 - ✓ ペットボトルを粉砕し、エネルギーとして活用する
- ・ プラスチックごみを抑制する経済的な仕組みが導入されている

- （関連するアイデア例）
 - ✓ 有料化されている
 - ✓ プラスチックの価格が税金で補正される
- ・ プラスチック容器やペットボトルを使わずに済む行動が取れる仕組みが導入されている
 - （関連するアイデア例）
 - ✓ コーヒーショップなどでマイボトル持参が推奨されている
 - ✓ 酒屋で瓶に量り売りしてくれる
 - ✓ プラスチックごみを減らしても商売が成り立つようになっている（持ち込み容器で総菜を販売してくれるなど）
- ・ 生ごみがバイオマスとして活用されている
 - （関連するアイデア例）
 - ✓ バイオガス供給
 - ✓ 各家庭でコンポストを導入する、太陽熱を活用した効率の良いシステムを活用する
 - ✓ 食品廃棄物をホテルの餌として活用する
 - ✓ 近隣地域との連携で、牛ふんなどと混合して堆肥化し、農業に活用する
- ・ 近隣自治体と資源を融通し、資源が循環する生活スタイルに変わっている
- ・ （資源回収など）町会・自治会の活動が活性化している

これから必要な取組

※項目の行頭マークが「◇」の取組は、環境学習・人材育成に関するもの

【市全体（行政）の取組】

- ◇ **資源回収への協力に対するインセンティブを付与する** →33ページに詳述
- ・ 多摩地域の中でごみ処理・再資源化施設を分担して融通し合うことで、より広域的なりサイクルシステムを構築する
 - ・ 田畑の多い地域で生ごみを堆肥化、栽培された農作物を福生市で販売する
 - ・ 福生市ではプラスチックごみ再資源化施設を整備し、近隣自治体から受け入れる等
- ・ ごみ収集袋にイラストで分別を掲載し、分かりにくさを解消する
- ・ **ライフスタイル・市民ニーズの多様化に応じて、利用者負担の原則を保ちつつ収集体制も柔軟に対応していく**
 - ・ たとえば、朝の収集に間に合わない事情がある世帯を対象に夜間収集のサービスを導入する（戸別収集ではなくステーション収集に近い形式：鍵付きのダストボックスにごみ・資源を投入することとし、事前申請した利用者に有料でロック No.を付与、利用者から徴収する手数料と収集コストが見合うと判断する収集運搬事業者の参入を促す）

- ・ 資源の種類によって収集袋の値段を変える
(指定袋料金の考え方)
 - ✓ 燃やすしかない、資源化の可能性がないごみは、資源化できるものよりも割高にする(資源化できるよう分別を促す)
 - ✓ 生ごみは近隣市町で資源化する場合、燃やすごみより安くする
 - ✓ プラスチックごみは容器包装・製品に関わらず有料とする(リサイクルに回すためのコストを市民側でも負担すべき、有料にすることでプラスチックごみが少なくなるような、プラスチックを廃棄しないようなライフスタイル・消費行動を促す)
 - ✓ 西多摩衛生組合としてごみ・資源収集袋を統一することで、ごみ減量・コスト減の足並みを揃える
- ◇ ごみ・資源のライフサイクル(処理から資源化の流れ)を分かりやすく伝える
- ◇ リサイクルセンターなどの見学機会、体験型学習の機会を拡充する
- ◇ 「ごみ」という表現をせず、すべて資源であるという意識を周知する
- ◇ 外国人住民への働きかけを強化する
- ◇ (適切な分別の維持を含む)町会・自治会活動に、マンション住民が参加しやすい仕組みを作り、町会・自治会の活動を補助金等で支援する

【市民・市民団体の取組】

- ・ 資源の流れを理解し、適切な分別を徹底する
- ・ 資源回収へのインセンティブを活用し、協力する
- ・ 生ごみ水切りダイエットに取り組む
- ◇ 環境体験・環境学習に積極的に参加する
 - ◇ リサイクルセンターなどのごみ・資源関連施設を、大人も見学する
 - ◇ 環境イベントをもっと面白くする
 - ◇ 子ども食堂を、楽しみながら学べる環境教育の場としても活用する
- ◇ 市民団体同士の連携を強化する
- ◇ 外国人住民に分別や資源の出し方を伝えるなど、サポートする
- ◇ 町会・自治会加入率(特にマンション)を高めるための工夫をする

【事業者の取組】

- ・ ペットボトルや容器包装類を削減する
 - ・ 「共通ボトル」を販売し、店内で飲食しない客にも給水する
 - ・ 弁当や総菜を購入する際、容器を持参するとポイント還元やおまけをつける
- ・ リサイクル可能な素材を用いた製品の提供に努める
- ・ 食用油の回収とリサイクルの仕組みを作る
- ・ ペットボトル等の回収ボックスは、下から投入する方式のものを設置する(異物投入がづらい機構)

【国・世界全体に求めること】

- ・ プラスチックを作らない・使わない方向を目指す(安く調達できる代替材料の開発・普及を含む)
- ◇ 「環境」という名の教科を作り、環境学習を強化する

この他にも様々なアイデアが出されました。次ページの作業結果図もご覧ください。

2050年の理想

2035年ごろの状態

必要な取組

現状 (課題)

プラスチックが自然にリサイクルされる仕組みが出来上がっている

海に出さないようにすることを徹底

プラに替わる素材が安く使える

廃棄物、一般ゴミのリサイクル100%
鉄道等を地下へ移し洗滌の解消を(エネルギー消費削減)

近隣都市とコラボしてプラスチックリサイクルセンター計画
学校建て替えのタイミングで利用してプラスチック粉砕工場の敷設

税金などでプラの価格を補正
プラごみの有料化

ペットボトルをなるべく使わないような行動がとれるように
販売とプラごみを両立していく

コーヒーショップにマイボトル持参
酒屋で一升瓶に詰める(量り売り)

各家庭でコンポスト利用
食品残渣をホテルのエサとして利用
地産地消を増やしていく

バイオガスの提供(家庭からのシステム)
牛糞との混合により効率化(地域連携)

資源を有効活用する生活スタイルに変えていく

町会の活性化が必要

市全体

市民

事業者

施設の統合で回収率をまどまったものに
ごみ箱設置(最小限)
ごみ箱設置(大層)

町会を巻き込む仕組み作り(補助金の活用)

環境意識の低い人への啓発
見学会を通して分別状況の現状を知る
子供が集まれる施設を

教育(分別)ポイント・キョウト券(インセンティブの提供)の提供(インセンティブの提供)

多摩地域の活用(コラボ)
多摩地域循環システム(コラポ)の確立

多摩産材の地産地消による産業の活性化
国・都の補助金をもって活用する

都営・空地の活用を検討する(→エコパーク化)

市役所の広場をイベント会場として活用

環境政策のアピールをデジタルを用いて

縦割り行政の改革

ルール通りの分別・分別カレンダの徹底
マイはし
マイボトル
エコバッグの持参徹底
農産物の地産地消
個人菜園の拡張

水切りタイエットの普及
環境イベントと面白くする

環境意識の低い人への啓発
見学会を通して分別状況の現状を知る
子供が集まれる施設を

教育(分別)ポイント・キョウト券(インセンティブの提供)の提供(インセンティブの提供)

多摩地域の活用(コラボ)
多摩地域循環システム(コラポ)の確立

多摩産材の地産地消による産業の活性化
国・都の補助金をもって活用する

都営・空地の活用を検討する(→エコパーク化)

市役所の広場をイベント会場として活用

環境政策のアピールをデジタルを用いて

縦割り行政の改革

リサイクル可能な素材を用いた製品の提供
生分解性プラスチックの利用促進
市外の事業者への働きかけ

環境イベントへの積極的参加

環境意識の低い人への啓発
見学会を通して分別状況の現状を知る
子供が集まれる施設を

教育(分別)ポイント・キョウト券(インセンティブの提供)の提供(インセンティブの提供)

多摩地域の活用(コラボ)
多摩地域循環システム(コラポ)の確立

多摩産材の地産地消による産業の活性化
国・都の補助金をもって活用する

都営・空地の活用を検討する(→エコパーク化)

市役所の広場をイベント会場として活用

環境政策のアピールをデジタルを用いて

縦割り行政の改革

利便性の無駄PET回収率良い
過剰包装
無料収集

プラごみが多くなり
がちな世代がある
正確に分別されていく

ものだけ使う無駄なものを買わない
分別しにくい(生産側の問題)

電気式からのシフト
キヤップやシールが剥がされていく

自治会加入率も減って
町会メンバーが固定され新規が入りづらい

逆有償になる資源も
情報によって価格が変動する

小学生向け副読本の活用、リサイクルセッションを実施

現行の収集体制への
分別が細かい
点が評価されている

外国人住民への周知徹底に課題

2050年の理想	2035年ごろの状態	必要な取組			現状 (課題)
<p>参加と協働</p> <p>プラスチックが自然にリサイクルされる仕組みが出来る上がっている</p> <p>海に出さないようにすることを徹底</p> <p>プラに替わる素材が安く使える</p>	<p>ペットボトル 粉砕エネルギー</p> <p>近隣都市とコラボしリサイクルセンターでプラスチック粉砕工場建設</p> <p>学校建て替えのタイミングで利用してプラスチック粉砕工場建設</p> <p>税金などでプラの価格を補正</p> <p>プラごみの有料化</p> <p>ペットボトルをなるべく使わないよう行動がとれるように</p> <p>販売とプラごみを両立していく</p> <p>コーヒーショップにマイボトル持参 酒屋で一併瓶に詰める(量り売り)</p> <p>各家庭でコンポスト利用</p> <p>食品残渣をホタルのエサとして</p> <p>地産地消を増やしていく</p> <p>廃油を分離して活用(新しい油 材の活用)</p> <p>バイオマスエネルギー、生ごみ、竹や草を木質バイオマスに</p> <p>資源を有効活用する生活スタイルに変えていく</p>	<p>市全体</p> <p>オンラインマイプラ+資源出しを新しいプラリで</p> <p>別院を設けてこのためすぎを防ぐ</p> <p>My City Report (国交省のアプリ)を参考にする</p> <p>リサイクルセンターを減らすような感じにする</p> <p>小さいコミュニティで通用するマイプラ制度</p> <p>資源回収にメリットを付ける</p> <p>地域通貨やポイント制度の普及・三徳</p> <p>ゴミ収集の時間 帯有料化(時間 差別料金制度)</p> <p>資源によって単の価格を変える(例) 家庭菜5円 プラ10円</p> <p>イラスタなどを使い分別が分かりやすい状況をなくす</p> <p>資源を他の市町村で融通を利かせ良くなる</p> <p>「環境」という名の教科書作り強化する</p> <p>ゴミのライフサイクルを見える化する</p> <p>コスト重視から環境重視にどうか転換していくか</p> <p>協働の場に参加できる仕組み作り</p>	<p>市民</p> <p>回収する際にお金を換す(100円 時は悪)</p> <p>市民の「環境」に対する認知度を上げる</p> <p>分別をしっかりとやる(流す・流す・流す) 生産・流通に声をあける</p> <p>処分場など以外一度は見学すべき</p>	<p>事業者</p> <p>容器の持参するとポイント還元</p> <p>自販機を無くし給水器を設置する</p> <p>「共通ボトル」を販売し、どこでも給水できるようにする</p> <p>竹や草などの植物が「雑草・雑木」と表記されている?</p> <p>コンポスト賞与制度 電気式からのシフト 必要かい?</p> <p>食用油の回収とリサイクルの方法</p> <p>コンポストとプラを強化</p> <p>古紙を減し、ネット社会の普及に努める</p> <p>社会加入率も減っている中、資源回収活動はどうなる?</p> <p>コンビニのゴミ回収の逆有償</p> <p>ゴミ収集車が時間までに対応できないとき住民の駅や公園に捨てる</p> <p>生向け製菓本のリサイクルセンター見学を実施</p> <p>現行の収集体制への満足度は高い</p> <p>管理人のいないマンションが不適切分別 外国人住民への周知徹底に課題</p>	<p>容器容器包装プラ、ペットボトルは無料収集</p> <p>プラごみが多くなりがちな世代がある</p> <p>業外発電電を廃し資源を得る</p> <p>竹や草などの植物が「雑草・雑木」と表記されている?</p> <p>コンポストとプラを強化</p> <p>電気式からのシフト 必要かい?</p> <p>食用油の回収とリサイクルの方法</p> <p>コンポストとプラを強化</p> <p>古紙を減し、ネット社会の普及に努める</p> <p>社会加入率も減っている中、資源回収活動はどうなる?</p> <p>コンビニのゴミ回収の逆有償</p> <p>ゴミ収集車が時間までに対応できないとき住民の駅や公園に捨てる</p> <p>生向け製菓本のリサイクルセンター見学を実施</p> <p>現行の収集体制への満足度は高い</p> <p>管理人のいないマンションが不適切分別 外国人住民への周知徹底に課題</p>

(2) 生物多様性・自然環境分野

現状と課題

【緑地・公園について】

- ・ 公有地化により保全された緑地もありますが、市内全体では農地や樹林地が宅地化され、まとまった緑地は減少傾向にあります。
- ・ 市内の多くの公園は、公園ボランティアにより管理されています。ボランティアの高齢化は課題になっています。
- ・ 大小あわせ多数の公園があり、管理の目が行き届かない公園もあります。
- ・ 現状では文化の森でのみ萌芽更新の活動が行われていますが、活動の対象を拡大する必要があります。
- ・ 多摩川堤防沿いの桜並木は市民に親しまれていますが、堤防の安全管理上、再植樹による更新ができない状況です。

【動植物の変化について】

- ・ 飼い主のいないネコに関わる問題(苦情やへい死体の搬入数)は減少しており、地域猫活動が継続された成果と考えられます。
- ・ 行政・市民・研究者らの協働でカワラノギクプロジェクトが展開されています。しかし市民の認知度は十分に高まってはいません。
- ・ 公園や河川沿いでは、かつて見られたアオサギなどの鳥類が見られなくなりました。
- ・ アライグマ・ハクビシンなど外来生物への対策が強化されましたが、一部では根付いてしまった地区もあると考えられ、完全な駆除は困難です。
- ・ ごみの出し方が悪い(分別・時間を守らないなど)ことが要因となって、外来生物が増えている可能性も考えられます。
- ・ 公園等におけるクビアカツヤカミキリへの対策が進んでいますが、民地での状況を把握しづらく、対策が困難です。
- ・ 感染症を媒介するマダニの生息域が広がっており、河川敷などでの被害が懸念されます。

【都市農業について】

- ・ 市内で生産された花苗を活用した花いっぱい運動が実施されているが、花苗生産農家の高齢化により供給量が減少傾向にあります。
- ・ 農地が宅地化され、減少傾向にあります。
- ・ 場所によって利用度に差があるものの、市民農園のニーズは高い状況です。新しく始めたい市民が、新規で借りることが実質的に難しく感じられるケースもあります。
- ・ 少量・多品種栽培は、気候の変化にも抵抗性が高いという面で意義があります。生物多様性の維持という側面からも、市民農園の機能は重要です。

- ・ 除草剤・殺虫剤・化学肥料などにより植物や生き物に影響があることが懸念されます。

【河川・水循環について】

- ・ 多摩川河川敷の公園は多くの市民に利用されています。一方で、令和元年度の台風被害をきっかけとして市民の防災意識が高まっており、河川の防災対策も急がれています。多摩川の利用に際しては、親水と防災の両立が必要です。
- ・ 多摩川の河川維持水量は増えていますが、堆積土砂などの影響で河床が上がっていることから、流量が少ない状況が続いています。
- ・ 子どもたちも参加して水生生物による水質調査が実施されており(水辺の楽校)、「I (きれいな水)」の判定が維持されています。
- ・ 淡水魚の体内からもマイクロプラスチックが検出されたという報道もあり、多摩川での生物濃縮の状況が懸念されます。
- ・ 市内で7カ所の湧水地点の水質調査を継続していますが、うち2カ所は湧出が確認できなくなりました。(すべての湧水地点をピックアップしている訳ではないため、ただちに地下水量が減少していると判断できるわけではない)

目指したい姿

【2050年頃の将来像】

- ・ 公園・樹林地に豊かな緑が引き継がれている
- ・ 河川の防災対策と自然が両立されている
- ・ 水資源が有効利用されている
- ・ 多摩川の生物群が今より豊かになっている
- ・ 生物多様性を活用したビジネスが生まれ、水・植物・生きものを生かした楽しめる場所がある
- ・ 多摩川で正月のどんど焼きが継続されている
- ・ 多摩川堤防沿い桜並木に代わる、花を楽しめる場所がある
 - ✓ 空地(空家)が植樹され、彩りある公園や広場になっている
 - ✓ ツツジ、シバザクラ、多種のサクラなど季節ごとに様々な植物を楽しめる公園がある
 - ✓ 桜まつりに代わる、市民が楽しく集まれる場所・イベントがある
- ・ 少なくとも野菜は自給自足できている
 - ✓ 多摩川河川敷を活用した菜園がある
 - ✓ 植物工場が進出している

【10年後に達成したい状態】

- ・ 公園・グラウンド等に防災基地としての機能を持たせ、広場として活用しつつ防災意識の向上に役立てる
- ・ 植林活動が活発化している
(関連するアイデア例)
 - ✓ 作業員不足をAIがある程度補っている
 - ✓ 樹木1本ずつを適正に管理できるようなデータが整備されている
 - ✓ 公園の伐採木材をバイオマスとして活用する
- ・ ボランティア頼りでなく、公園の保全が「仕事」として成立している
- ・ 家庭での植樹(庭木)が進むような補助制度が充実している
- ・ 家庭を含め雨水の利用が進んでいる
- ・ 子ども・若者が自然環境保全のボランティア活動に参加している

これから必要な取組

※項目の行頭マークが「◇」の取組は、環境学習・人材育成に関するもの

【市全体(行政)の取組】

- ◇ 公園管理や樹林地保全などのボランティア活動に対するインセンティブを付与する

→33ページに詳述

- ・ 公園全体の計画(マスタープラン)を策定する
 - ・ 公園全体の方針と、個々の公園に立地特性を踏まえたコンセプトを設定する
(公園ごとの特徴の例)
 - ✓ 樹木・花などによる香り・色合いが楽しめる公園
 - ✓ ツツジ/シバザクラがきれいな公園
 - ✓ 生き物観察ができる公園
 - ✓ かくれんぼができる公園
 - ✓ 観劇できる公園
 - ✓ 車いすでまわれる公園
 - ✓ バードウォッチングが楽しめる公園
 - ✓ フィールドアスレチックがある公園
 - ✓ 水と緑に触れる散策が楽しめる公園
 - ✓ スポーツ・バーベキュー公園
 - ✓ 農作業体験ができる公園
 - ✓ ユニークな遊具がある公園
 - ・ 公園の配置を整理し、廃止する公園があっても良い
 - ・ 公園内に情報盤を設置し、QRコードを読み取れば年間を通して動植物や歴史的な情報が得られるようにする

- ・ 公園内の夜間照明を充実させる（不法投棄や犯罪の抑止）
- ・ 公園ボランティアの活動実態を的確に把握する
 - ・ ボランティアの持つスキルや望む関わり方によって、依頼する作業内容を「協働」の視点を持って適切に振り分ける（多様な関わり方が可能であってほしい）
 - ・ ボランティア保険の加入状況や行政から受けられる支援内容など、ボランティア団体内での定期的な情報共有を促す
- ・ 公園の維持管理作業の一部をシルバー人材センターに委託し、確実に必要な作業が実施できるようにする
- ・ 公園のトイレを有料化し、利用状況を改善する
 - ・ 有料化されたトイレは公園の景観も改善され、犯罪も減る
 - ・ 利用料金を原資にして美化活動につなげる
- ・ 萌芽更新を推進する
 - ・ 萌芽更新の作業を担える団体を育成・拡大する
 - ◇ 教育の場でも萌芽更新など樹林地保全に関わる機会を設ける
 - ◇ 木を伐採して薪を作り災害の際に活用する体験機会を設ける
- ・ 雨水ますの設置を促進する
 - ・ 住宅新築の際に指導する
 - ・ 補助申請を簡易化するなど補助制度を見直す
 - ・ 助成制度の周知を強化し、小規模な開発に対しても雨水貯留・浸透施設が設置されるよう PR を行う
 - ・ 雨水ますを災害時に利用できるなど、多目的化する
- ・ 市民農園を増やす
 - ・ 新規の挑戦がしやすいよう、空き状況をわかりやすく周知する
 - ・ 活用可能性の低い空家を市有地化し、農園にする
 - ・ 花いっぱい運動の配付用として、花苗の生産を行政から市民に依頼する
- ・ 外来生物の防除を多面的に進める
 - ・ 動物が棲みつかないように、空家等を管理する
 - ・ 生垣を活用した防除策を導入する
- ◇ ほたる公園の近くに学習センターを設置し、情報発信する（ホタル祭り以外でも活用）
- ◇ 川の志民館をもっと活用する
- ◇ SNS や動画を活用して自然環境・生物多様性の情報を発信する

【市民・市民団体の取組】

- ・ 庭の全面をコンクリートで覆わない、駐車場など土のスペースを残すように、雨水が浸透するような土地の使い方を意識する（スリット状に土の部分を残す、敷地堺にグレイチングを作るなど）
- ・ 河川、河川沿いの緑の質や水質に関心を持つ

- ・ 市民農園などで栽培した野菜を市内で販売するルート・仕組みを構築する(市民農園や家庭菜園で栽培された作物を販売できるスポットを市内に複数設け、定期的に即売会を行う、料理教室など同時開催する)
- ◇ 樹木の伐採～薪割り～災害時の活用を体験する
- ◇ 自然体験・ボランティア活動を通じて、子どもの自己有用感を高める

【事業者の取組】

- ・ 市内で生産される農産物を発掘し、六次産業化する(落花生、のらぼう等)
- ・ 殺虫剤、除草剤、肥料に関する専門知識を有するスタッフを育成し、適正な使用を店頭で指導する
- ・ 公園や樹林地の管理ボランティアを、会社のプロモーション事業として実施し、社会貢献と事業展開に繋げる
- ・ 害獣対策を事業化する(ドローンを使った監視、見守り、巣穴の駆除等)
- ・ 敷地の全面をコンクリートで覆わない、駐車場など土のスペースを残すように、雨水が浸透するような土地の使い方を意識する

【都に求めること】

- ・ 玉川上水の底盤を深くし、流量を確保する

この他にも様々なアイデアが出されました。次ページの作業結果図もご覧ください。

(3) 気候変動・エネルギー分野

現状と課題

【民生部門の気候変動対策について】

- ・ 市全体の CO₂ 排出量削減は、目標達成が厳しい見込みです。
- ・ これまでの民生部門の対策としては、普及啓発が中心でした。
- ・ ゼロカーボン達成のためには、住宅の低炭素化が重要な課題です。
- ・ 進捗管理に活用しているデータでは、横田基地の排出量が福生市分として含まれているため、市民の行動変容による削減状況が分かりにくくなっています。
- ・ 市内で可能性のある再生可能エネルギーとしては太陽光発電がありますが、メンテナンスなどのサポート体制が十分にあるとは言い難い状況です。

【公共施設における対策について】

- ・ 福生市環境マネジメントシステム(F-e)では、市民参加で公共施設の CO₂ 排出量削減に取り組んできました。
- ・ 公共施設の老朽化が進んでおり、順次、施設設備を高効率・省エネ型のものに更新する動きがあります。事後対応から予防保全にシフトしています。
- ・ 本庁舎では ESCO 事業による老朽化対策と省エネ化が検討されています。
- ・ 一部施設では、多摩産材が活用されています。

【交通における気候変動対策について】

- ・ 立川市等との広域連携を想定した、新たなサイクルシェアリングの仕組みが導入されました。
- ・ 市道は狭いところが多く、自転車道や専用レーンを敷設することは困難です。
- ・ 公用車の EV 化が順次進んでいます。
- ・ EV の充電時間が課題になるため、EV の更なる普及のためには急速充電設備の整備も必要になります。
- ・ 鉄道駅は 5 駅と多いものの、バス路線は限られており、市内の移動は自家用車以外の手段が弱い状況です。

【気象災害等(気候変動への適応)について】

- ・ 特に河川浸水想定区域を中心に、気象災害に対する市民の関心は高まっています。
- ・ 大雨時には多摩川の氾濫だけでなく、内水氾濫の危険もあります。内水(下水道)ハザードマップが作成されていますが、十分に情報が浸透していません。
- ・ 町会・自治会を中心に防災訓練が実施されていますが、参加者は限定的で、市民全体で十分な訓練ができているとは言い難い状況です。災害時に避難所のキャパシティが不足することも懸念されます。

- ・ 自然災害のリスクが高まっていることへの認識は十分ではありません。過去には数年ごとに多摩川が氾濫していたなどの歴史的事実もあまり知られていません。
- ・ 気温の上昇によりマダニの生息域が拡大し、市内で SFTS(重症熱性血小板減少症候群)の被害が生じることが懸念されます。

【市民意識・国際情勢について】

- ・ 発展途上国の資源が先進国により搾取されている現状があります。貧富の差はより拡大していくため、対策が必要です。
- ・ 気候変動問題に対する市民の関心は高いものの、実際の有効な活動に結びついていないのが現状です。

目指したい姿

【2050年頃の将来像】

- ・ 発展途上国をカバーするような形で、脱炭素が実現している
- ・ スマートシティが構築されている
 - ✓ 住宅や事業所が集約され効率的に配置されている(エネルギーの集中利用)
 - ✓ 各種交通機関が連携している
 - ✓ 一人用モビリティとしてドローンが活用されている
- ・ 新たなエネルギーの利用が進んでいる(紫外線発電、台風発電など)
- ・ 電力グリッドの広域整備が進んでいる
- ・ 森林が適切に維持管理され、長期的に吸収源として安定している
- ・ ほたる祭が開催されている(気候変動による大幅な生物相の変化が生じていない)
- ・ 地域における防災対策が進み、避難しなくてもよい社会になっている

【10年後に達成したい状態】

- ・ **福生駅西口の再開発事業は、脱炭素・スマートシティ(Society5.0、エネルギーの効率的な利用・融通、公共交通機関の連携を含むモビリティ)の発想で進んでいる**
- ・ ZEH・ZEB(ゼロエネルギー住宅・ゼロエネルギービル)が推進されている
- ・ 福生市の特性を生かしたエネルギーの地産地消が行われている(関連するアイデア例)
 - ✓ 縦置き、ペロブスカイト太陽電池など新たな太陽光発電の普及
 - ✓ 玉川上水の流れを活用した小水力発電
 - ✓ 食品廃棄物、下水処理汚泥を活用したバイオガス
- ・ グリーン水素の活用(燃料電池車、家庭用燃料電池など)が、近隣市との連携で進んでいる
- ・ 余剰電力を融通できる仕組みが構築されている
- ・ 気象災害への備えが進んでいる

(関連するアイデア例)

- ✓ 雨水利用が進んでいる
- ✓ 多摩川河川敷公園の地下に貯水槽を構築し、氾濫を防ぐ
- ✓ 遊水地など水の逃げ場を作る
- ✓ 福生団地の1階は使わずに上階に居住する

これから必要な取組

【市全体(行政)の取組】

- ・ 福生市の特性を生かした再生可能エネルギーを導入する
 - ・ 太陽光発電＋蓄電池
 - ・ 水道管を利用した小水力発電
 - ・ 生ごみなどを利用したバイオマス発電 など
- ・ 再生可能エネルギー由来の電気への切替を市が仲介する
- ・ ZEH・ZEB 化、断熱化、空調機器等の高効率化を促進する補助制度を導入する
 - ・ 太陽光発電＋蓄電池の設置（ポータブル型も含む）、高断熱・高气密化、省エネ家電への補助を中心に
 - ・ 補助メニューを明確化し周知を強化する
- ・ 燃料電池車の導入を推進する
- ・ 市内の移動をカバーする小型バスを導入する
- ・ 森林環境譲与税を活用して、奥多摩の森林整備に貢献する
 - ・ 施設整備時に多摩産材を活用する
 - ・ 森林吸収をクレジット化して購入する
- ◇ 気候変動・エネルギーに関する学習機会を拡大する
 - ◇ 地球温暖化防止活動推進センターの設置
 - ◇ 気候変動が進んだ未来のイメージ動画
- ・ **ハザードマップを活用した防災行動を促す**
 - ・ 名称を変更する、サブタイトルをつける
 - ・ ハザードマップとあわせ、漫画を使ったパンフレットや非常持ち出しリストなど分かりやすいツールを配付して、ハザードマップの理解・活用につなげる
 - ・ 全戸配布の次のステップとして、ハザードマップの理解や避難・防災行動の実践につながるよう、より踏み込んだ情報発信と学習機会づくりを行う
 - ・ 避難所、避難経路に目に付く分かりやすい掲示を設置する
- ◇ 気候変動対策や意識改革のための活動を、町会・自治会でも実施するよう促し、活動への助成を行う

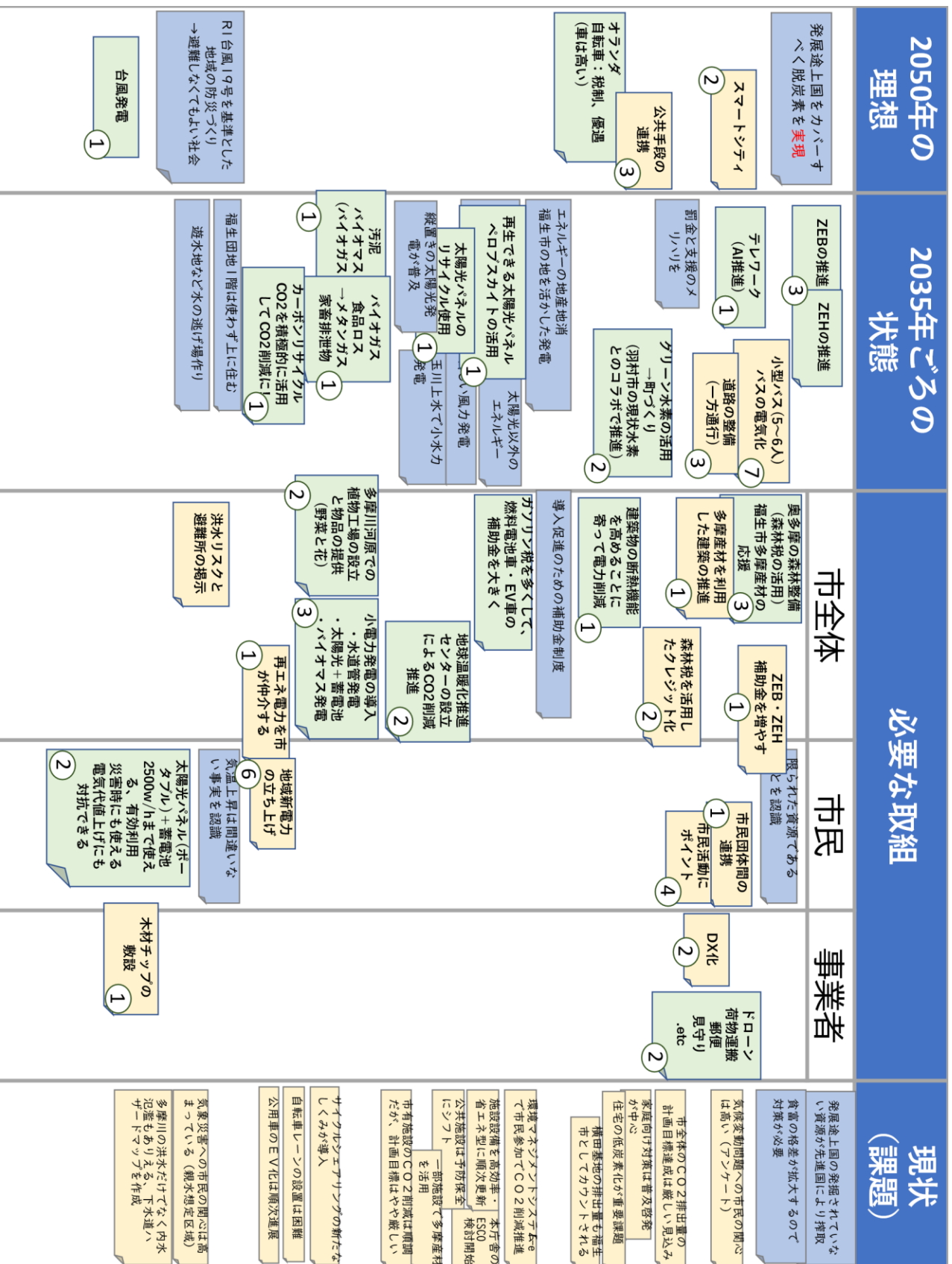
【市民・市民団体の取組】

- ・ 周辺地域・事業者と連携した地域新電力(再生可能エネルギー由来電力を調達し、市内の家庭・事業所に販売する)の可能性を探る
- ・ 電気代上昇や災害時の対策として、ポータブル型太陽光発電+蓄電池を活用する
- ・ 「家庭エコ診断」を受診し、効果的な対策につなげる
- ◇ 各家庭のCO₂排出量が見られるシステムを導入し、意識改革を図る
- ◇ 限られた資源を使って生活していること、気候変動が事実であることを認識する
- ◇ 気候変動対策や意識改革のための活動を実施する担い手を増やす
 - ◇ 町会・自治会単位で活動する
 - ◇ 市民団体間の連携を図る
 - ◇ 活動をポイント化する
- ◇ 防災訓練の充実化を図る(参加したくなる防災訓練の企画とあわせて)
 - ◇ 自宅から避難所までの経路確認
 - ◇ 避難所での役割分担
 - ◇ ペットがいる世帯の避難行動
 - ◇ 被災体験を持つ方の経験に学ぶ
 - ◇ 学んだことを広める

【事業者の取組】

- ・ IT化・DX化を推進しテレワークを実施する
- ・ 事業活動で消費するエネルギーの削減策を公表する(ESGポリシーの実践)
- ・ 「省エネ診断」を受診し、効果的な対策につなげる
- ・ ドローンを活用した荷物・郵便物運搬や見守り活動を事業化する
- ・ 事業者間で余剰電力を融通できる仕組みを作る
- ・ 敷地内に木材チップ敷設したり、樹林地整備に参加することで、吸収源対策に貢献する

この他にも様々なアイデアが出されました。次ページの作業結果図もご覧ください。



2050年の理想	2035年ごろの状況	必要な取組	現状 (課題)	
<p>発展途上国をカバーすべく脱炭素を実現</p>	<p>罰金と支援のメリハリを</p> <p>住宅の集約化 →効率的配置 エネルギーの集中利用 ③</p> <p>エネルギーの地産地消 福生市の地を活かした発電</p> <p>太陽光発電 NEW→フィルム、パネル式、家庭用 縦置き太陽光発電が普及</p> <p>ホタル祭りが開催されている ①</p> <p>世界の森林長期維持の安定化! ②</p> <p>フロート (1人用とか) ①</p> <p>R1台風19号を基準とした地域の防災づくり →避難しなくともよい社会</p>	<p>市全体の目標となるものを作る</p> <p>家庭の空調設備を推進し、市が補助する ②</p> <p>桜公園を作る ②</p> <p>市民へのPR (市のFe-活動) You Tube TikTok Twitterの活用 ①</p> <p>玉川上水 市民参加の 一斉清掃 ①</p> <p>市小電力施設を全て交換する</p> <p>玉川上水の管理 権限の柔軟化</p> <p>水素自動車の導入を推進する ①</p> <p>小型バスを市内に導入する (コミュニティバスは除く) ③</p> <p>グリーンセンターを火力発出できる施設を構築し、電力配給をすすめる 温水を含めて配給する</p>	<p>限られた資源であることを認識</p> <p>温暖化傾向が示す未来のイメージ動画を作る →学習機会 ③</p> <p>各家庭のCO2排出が見られるシステム化 (日々のCO2を個人に管理して意識改革) ③</p> <p>福生駅前再開発の見直し (stop) ③</p> <p>町内会の活用 (支援金を出す) ③</p> <p>太陽光を取り入れる住宅構想 →照明削減</p> <p>玉川上水の清掃活動</p> <p>担い手を増やす</p> <p>学びの機会の創出 (体験学習を中心に) 気温上昇は関連しない事実を認識</p> <p>災害発生時 3日以内に起こる事、3ヶ月以内に起こることを把握 助ける側の訓練を行う ①</p>	<p>発展途上国の発掘されていない資源が先進国により搾取 豊富な格差が拡大するので対策が必要</p> <p>気候変動問題への市民の関心は高い (アンケート)</p> <p>市全体のCO2排出量の計画目標達成は厳しい見込み 家庭向け対策は普及啓発が中心 住宅の低炭素化が重要課題 横田基地の排出量も福生市としてカウントされる</p> <p>環境マネジメントシステムで市民参加でCO2削減推進 施設設備を高効率・ESG 省エネ型に順次更新 公共施設は予防保全にシフト 一部施設で多摩産材を活用</p> <p>本庁舎のESG検討開始</p> <p>市有施設のCO2削減は順調で厳しい</p> <p>太陽光 メンテナンス・サポートの体制</p> <p>気候変動の関心が高い →実際に活動しない の新たな</p> <p>公用車のE.V化は順次進展 車以外のモビリティ テラーが賞状 ①</p> <p>気象災害への市民の関心は高まっている (観水想定区域) 多摩川の洪水だけでなく内水氾濫もありえる、下水道いざりを作成</p> <p>避難訓練不要? 避難先のトイレ キヤバ? ①</p> <p>SFTS(ダニ)の増加 E.Vは充電時間が課題 ①</p>
<p>電力グリッドの広域整備 ①</p> <p>紫外線発電の研究 →新エネルギー ④</p> <p>玉川上水が観光スポットになっている ①</p> <p>余剰電力を融通できる ①</p> <p>観光スポットになっている ①</p> <p>水素エネルギーを推進してCO2削減を図る ④</p> <p>水素の車が沢山走っている ③</p> <p>多摩川公園を地下を地下貯水槽を構築して多摩川の氾濫を防ぐ ②</p> <p>福生団地1階は使わず上に住む</p> <p>遊水地など水の逃げ場作り</p> <p>雨水の利用 ②</p>	<p>市全体の目標となるものを作る</p> <p>家庭の空調設備を推進し、市が補助する ②</p> <p>桜公園を作る ②</p> <p>市民へのPR (市のFe-活動) You Tube TikTok Twitterの活用 ①</p> <p>玉川上水 市民参加の 一斉清掃 ①</p> <p>市小電力施設を全て交換する</p> <p>玉川上水の管理 権限の柔軟化</p> <p>水素自動車の導入を推進する ①</p> <p>小型バスを市内に導入する (コミュニティバスは除く) ③</p> <p>グリーンセンターを火力発出できる施設を構築し、電力配給をすすめる 温水を含めて配給する</p>	<p>限られた資源であることを認識</p> <p>温暖化傾向が示す未来のイメージ動画を作る →学習機会 ③</p> <p>各家庭のCO2排出が見られるシステム化 (日々のCO2を個人に管理して意識改革) ③</p> <p>福生駅前再開発の見直し (stop) ③</p> <p>町内会の活用 (支援金を出す) ③</p> <p>太陽光を取り入れる住宅構想 →照明削減</p> <p>玉川上水の清掃活動</p> <p>担い手を増やす</p> <p>学びの機会の創出 (体験学習を中心に) 気温上昇は関連しない事実を認識</p> <p>災害発生時 3日以内に起こる事、3ヶ月以内に起こることを把握 助ける側の訓練を行う ①</p>	<p>発展途上国の発掘されていない資源が先進国により搾取 豊富な格差が拡大するので対策が必要</p> <p>気候変動問題への市民の関心は高い (アンケート)</p> <p>市全体のCO2排出量の計画目標達成は厳しい見込み 家庭向け対策は普及啓発が中心 住宅の低炭素化が重要課題 横田基地の排出量も福生市としてカウントされる</p> <p>環境マネジメントシステムで市民参加でCO2削減推進 施設設備を高効率・ESG 省エネ型に順次更新 公共施設は予防保全にシフト 一部施設で多摩産材を活用</p> <p>本庁舎のESG検討開始</p> <p>市有施設のCO2削減は順調で厳しい</p> <p>太陽光 メンテナンス・サポートの体制</p> <p>気候変動の関心が高い →実際に活動しない の新たな</p> <p>公用車のE.V化は順次進展 車以外のモビリティ テラーが賞状 ①</p> <p>気象災害への市民の関心は高まっている (観水想定区域) 多摩川の洪水だけでなく内水氾濫もありえる、下水道いざりを作成</p> <p>避難訓練不要? 避難先のトイレ キヤバ? ①</p> <p>SFTS(ダニ)の増加 E.Vは充電時間が課題 ①</p>	<p>発展途上国の発掘されていない資源が先進国により搾取 豊富な格差が拡大するので対策が必要</p> <p>気候変動問題への市民の関心は高い (アンケート)</p> <p>市全体のCO2排出量の計画目標達成は厳しい見込み 家庭向け対策は普及啓発が中心 住宅の低炭素化が重要課題 横田基地の排出量も福生市としてカウントされる</p> <p>環境マネジメントシステムで市民参加でCO2削減推進 施設設備を高効率・ESG 省エネ型に順次更新 公共施設は予防保全にシフト 一部施設で多摩産材を活用</p> <p>本庁舎のESG検討開始</p> <p>市有施設のCO2削減は順調で厳しい</p> <p>太陽光 メンテナンス・サポートの体制</p> <p>気候変動の関心が高い →実際に活動しない の新たな</p> <p>公用車のE.V化は順次進展 車以外のモビリティ テラーが賞状 ①</p> <p>気象災害への市民の関心は高まっている (観水想定区域) 多摩川の洪水だけでなく内水氾濫もありえる、下水道いざりを作成</p> <p>避難訓練不要? 避難先のトイレ キヤバ? ①</p> <p>SFTS(ダニ)の増加 E.Vは充電時間が課題 ①</p>
<p>電力グリッドの広域整備 ①</p> <p>紫外線発電の研究 →新エネルギー ④</p> <p>玉川上水が観光スポットになっている ①</p> <p>余剰電力を融通できる ①</p> <p>観光スポットになっている ①</p> <p>水素エネルギーを推進してCO2削減を図る ④</p> <p>水素の車が沢山走っている ③</p> <p>多摩川公園を地下を地下貯水槽を構築して多摩川の氾濫を防ぐ ②</p> <p>福生団地1階は使わず上に住む</p> <p>遊水地など水の逃げ場作り</p> <p>雨水の利用 ②</p>	<p>市全体の目標となるものを作る</p> <p>家庭の空調設備を推進し、市が補助する ②</p> <p>桜公園を作る ②</p> <p>市民へのPR (市のFe-活動) You Tube TikTok Twitterの活用 ①</p> <p>玉川上水 市民参加の 一斉清掃 ①</p> <p>市小電力施設を全て交換する</p> <p>玉川上水の管理 権限の柔軟化</p> <p>水素自動車の導入を推進する ①</p> <p>小型バスを市内に導入する (コミュニティバスは除く) ③</p> <p>グリーンセンターを火力発出できる施設を構築し、電力配給をすすめる 温水を含めて配給する</p>	<p>限られた資源であることを認識</p> <p>温暖化傾向が示す未来のイメージ動画を作る →学習機会 ③</p> <p>各家庭のCO2排出が見られるシステム化 (日々のCO2を個人に管理して意識改革) ③</p> <p>福生駅前再開発の見直し (stop) ③</p> <p>町内会の活用 (支援金を出す) ③</p> <p>太陽光を取り入れる住宅構想 →照明削減</p> <p>玉川上水の清掃活動</p> <p>担い手を増やす</p> <p>学びの機会の創出 (体験学習を中心に) 気温上昇は関連しない事実を認識</p> <p>災害発生時 3日以内に起こる事、3ヶ月以内に起こることを把握 助ける側の訓練を行う ①</p>	<p>発展途上国の発掘されていない資源が先進国により搾取 豊富な格差が拡大するので対策が必要</p> <p>気候変動問題への市民の関心は高い (アンケート)</p> <p>市全体のCO2排出量の計画目標達成は厳しい見込み 家庭向け対策は普及啓発が中心 住宅の低炭素化が重要課題 横田基地の排出量も福生市としてカウントされる</p> <p>環境マネジメントシステムで市民参加でCO2削減推進 施設設備を高効率・ESG 省エネ型に順次更新 公共施設は予防保全にシフト 一部施設で多摩産材を活用</p> <p>本庁舎のESG検討開始</p> <p>市有施設のCO2削減は順調で厳しい</p> <p>太陽光 メンテナンス・サポートの体制</p> <p>気候変動の関心が高い →実際に活動しない の新たな</p> <p>公用車のE.V化は順次進展 車以外のモビリティ テラーが賞状 ①</p> <p>気象災害への市民の関心は高まっている (観水想定区域) 多摩川の洪水だけでなく内水氾濫もありえる、下水道いざりを作成</p> <p>避難訓練不要? 避難先のトイレ キヤバ? ①</p> <p>SFTS(ダニ)の増加 E.Vは充電時間が課題 ①</p>	<p>発展途上国の発掘されていない資源が先進国により搾取 豊富な格差が拡大するので対策が必要</p> <p>気候変動問題への市民の関心は高い (アンケート)</p> <p>市全体のCO2排出量の計画目標達成は厳しい見込み 家庭向け対策は普及啓発が中心 住宅の低炭素化が重要課題 横田基地の排出量も福生市としてカウントされる</p> <p>環境マネジメントシステムで市民参加でCO2削減推進 施設設備を高効率・ESG 省エネ型に順次更新 公共施設は予防保全にシフト 一部施設で多摩産材を活用</p> <p>本庁舎のESG検討開始</p> <p>市有施設のCO2削減は順調で厳しい</p> <p>太陽光 メンテナンス・サポートの体制</p> <p>気候変動の関心が高い →実際に活動しない の新たな</p> <p>公用車のE.V化は順次進展 車以外のモビリティ テラーが賞状 ①</p> <p>気象災害への市民の関心は高まっている (観水想定区域) 多摩川の洪水だけでなく内水氾濫もありえる、下水道いざりを作成</p> <p>避難訓練不要? 避難先のトイレ キヤバ? ①</p> <p>SFTS(ダニ)の増加 E.Vは充電時間が課題 ①</p>

(4) 景観・美観・公害対策分野

現状と課題

【公害対策について】

- ・ 大気・水質に関する環境基準は、ほぼ達成されている状況です。
- ・ 道路騒音については、一部で基準値を満たさない箇所があります。
- ・ 航空機騒音への市民の不満は大きく、継続した課題です。基地周辺で基準値を超過する地点がありますが、実効性のある施策が取れる状況にはありません。
- ・ 基地周辺自治体で PFAS(有機フッ素化合物)による汚染の疑いが指摘されています。

【玉川上水・熊川分水について】

- ・ 玉川上水・熊川分水沿いの散策ルート化を望む声もありますが、民地が多いため実現可能性は低い状況です。
- ・ 熊川分水は景観重要資源として指定され、地元と市民団体、行政が協力して保全・整備が行われています。
- ・ 熊川分水については市民団体を中心に、市民が学習する機会が継続的に設けられています。
- ・ 熊川分水、歴史・景観資源に関する看板の設置や散策路の木柵化などが進み、景観保全には一定の進展がありました。
- ・ 歴史・景観資源を活かしたツアーはコロナ禍で一時停滞したものの、復活してきています。ガイド養成講座も数年ぶりに実施され、人材確保がなされています。

【まちなかの美化について】

- ・ ごみのポイ捨てや歩行喫煙禁止などの対策への満足度は、比較的低い状況が続いています。
- ・ マナーアップ指導員を配置し、ポイ捨てや路上喫煙を抑制を図ってきましたが、大きな動向変化はありません。マナーアップ指導員が実際に「指導」を行うのは難しく、ごみ拾いが活動の中心となっている現状があるようです。
- ・ 屋外広告物への対応は、職員と市民が違反広告物撤去協力員として活動しています。
- ・ 道路美化ボランティアが活動していますが、高齢化が課題となっています。
- ・ 人口減少が予測される中、市内に空家が増えていくことが想定されます。

目指したい姿

【2050年頃の将来像】

- ・ 国道16号線が地下化され、道路騒音が解消されている
- ・ JR青梅線が高架化され(ガード下の有効活用)、駅ロータリーを一体化することで東口・西口

の分断が解消されている

- ・ すべての住宅に防音対策(二重窓など)が施されている
- ・ 横田基地との共存のあり方が受け入れられている
- ・ 難民の受け入れが可能な体制が整っている
- ・ 電線・電柱が全面的に地中化され、日照を遮る樹木や緑地が整備され、快適に過ごせる
- ・ 玉川上水には美しい流れ、景観が残されている
- ・ 「音楽とアートのまち」として、人の魅力にひかれて人が集まるまちになっている
- ・ 夜間のライトアップ、街灯で十分な明るさがあり、安心できる

【10年後に達成したい状態】

- ・ 住宅等への騒音対策が進展している
- ・ 自動車の交通量が減り、騒音・振動・排気ガスの問題が軽減している
- ・ 横田基地との交流が活性化・深化している
(関連するアイデア例)
 - ✓ 世界各地への発信起点として、横田基地の情報発信力を活用できる
 - ✓ 日米交流イベントが活性化し、世界に開かれた都市として福生市が認知される
 - ✓ 基地内の一部に、自由に行き来できる場所ができています
- ・ 玉川上水の管理権限が市に移管され、美しい川づくりが進められている
- ・ 河岸段丘を生かした上から下(東西方向)への眺めを大事にした景観づくり、散策ルートづくりが進められている
- ・ 文化の森エリアに、図書館・自然環境の情報発信・休み処の機能を持つ複合施設がある
- ・ 自動お掃除ロボットによりまちの美観を保つサービスが事業化されている
- ・ 気持ちよく散歩できるまちになっている
- ・ 空家が公共スペースとして活用されている
(関連するアイデア例)
 - ✓ 楽器の練習、演奏ができる青空ステージ
 - ✓ 駄菓子屋のように子どもが集まるスペース
 - ✓ 高齢者の孤立化を防ぐための居場所・役割づくり
 - ✓ 共同農地
 - ✓ 独身者、学生に格安で提供
 - ✓ 難民受け入れ

これから必要な取組

【市全体(行政)の取組】

- ・ 航空機騒音を計測するポイントを増やしてより正確な実態を捉え、国を通じて改善要望をしていく

- ・ 駅そばの喫煙所を廃止し、代替としてまちなかに複数の喫煙室を設ける
- ・ 自動清掃ロボットの導入に向けた検討を開始する
- ・ 空家対策を強化する
 - ・ 空家（所有者不在）にする前に市に報告する仕組みを構築する
 - ・ 町会・自治会を通じて地域住民から情報を上げていく仕組みを構築する
 - ・ 空家の状況をスマホから連絡する仕組み（投稿にはポイント付与）でデータベースの構築・更新を図る
 - ・ 条件の良い物件はZEHまたは可能な限りの省エネ対策をした環境に優しい住宅として整備し、災害時避難所、民泊施設、地域会館などとして転用する
 - ・ 老朽化した空家は更地にして積極的に公共スペース化する
 - ◇ 解体にかかる費用はボランティア活動で補う
 - ◇ 若手起業家に安い賃料で貸し出し、創業を支援する
- ・ (多摩川堤防沿いに替わる)桜並木を計画的に整備する
- ・ 玉川上水・熊川分水沿いの景観、歩道、並木を整備する(土地にあった適切な植樹)
- ・ 玉川上水沿いの遊歩道を延長できるよう、計画的に土地を獲得していく
- ・ 多摩川・玉川上水に関するインフォメーションボードを設置する(看板はコンパクトでもスマホから情報を得られるように)
- ・ 「ふっさ十景」をめぐる巡回バスを導入する
- ◇ マナーアップ指導員の若返りと、指導権限を強化して活動の充実化を図る
 - ◇ 警察OB、教員OB、体育系OBに声掛けする
 - ◇ 多摩川河川敷でのバーベキューの片付けも指導できるように

【市民・市民団体の取組】

- ◇ 外国人住民の比率が高まっていることを受け止め、文化の多様性をリスペクトする、積極的に文化交流する
- ◇ 多摩川・玉川上水に関するインフォメーションボードを設置する(沿岸の動植物などに関する情報を提供する)
- ◇ 景観のよいピーク時(桜・紅葉など)に限り、玉川上水でカヌー体験を実施する(かつての渡船場など歴史の体験)
- ◇ 羽村から三鷹の沿線地域と連携し、玉川上水を歩く大会を実施する
- ◇ 古民家を活用した「玉川上水の駅」を整備する

【事業者の取組】

- ・ 国道16号線沿いの飲食店・店舗で、国際交流活動を行う
- ・ 玉川上水を活用したイベントを実施する(市内両酒造とコラボレーション等)
- ・ 自動販売機の設置事業者は、回収ボックスを設置してポイ捨てを抑制する(ただし、省エネ対策の観点からは自動販売機の抑制を図るのが望ましい)
 - ・ 種類ごとの分別用ダストボックス

- ・ 「分別へのご協力ありがとうございます」と表示する
- ・ ペットボトル等の回収ボックスは、下から投入する方式のものを設置する（異物投入がしづらい機構）
- ・ 名物料理、土産物など、福生の「売り」を明確にして打ち出す（ここでしか手に入らないモノ、味わえない味、ここでこそ聴ける JAZZ などコンテンツを開拓する）
- ・ 全市的なイベント開催時に、身近な環境や観光資源を自慢する「大声で福生への愛を語る」機会を設け、SNS でも発信する

この他にも様々なアイデアが出されました。次ページの作業結果図もご覧ください。

2050年の理想

2035年ごろの状態

必要な取組

現状 (課題)

市全体

市民

事業者

R16の地下化
④
通学路
遊歩道化

①
全棟の防音(二重窓)を支障し、防音対策で苦情を減少する

②
多摩川原の生き物の豊かさをさらに向上させる
多摩川周辺の自然・林も同様

①
日射遮る樹木を増やす

玉川上水(都水道局管理)を市管理へ変更する
玉川上水を美しい川へ

玉川上水西岸の遊歩道化、計画的に法制化
玉川上水の志茂から熊川までの景観を良くする

玉川上水・分水沿いの景観、歩道、並木

①
交通量を減らし、排出ガスの減少させ、自然環境も良くする

①
気持ちよく散歩できる

③
福生駅を高架化し、駅ロータリーを一体化(東口、西口を無くす)

②
JR青梅線を福生市エリア内に高架化する

②
公園の話題として分野替え
有料(100円)トイレ

②
トイレ有料化に伴い、美化できる活動が繋がれる

①
ポラントニアアの集め方を考える

③
好むと好まざるにかかわらず、外国人比率が大きくなっている
民族文化の多様なリスケット文化交流

④
空き家の利活用(学生・独身者etcへ提案してあげる)
難民の方も受入れる仕組み

④
空家を活用

④
壁面に吸音材や防音材
並木を計画的に作るべき

①
玉川上水歩道計画にて再建不可にすべき計画道路化(歩道)

①
玉川上水の樹林植替えにより、玉川の景観を見直す

①
玉川上水近くの道路から大型車通行禁止
又は一方通行へ

①
ゴミ・吸い殻のポイ捨て機会を減らすため、人集まれるスペースを豊かに!

④
玉川上水へゴミをポイ捨てしているケースが多いので収集できる体制を作る
川を美化するために川を主体とした町作り

③
航空騒音計測ポイントを増やして国へ報告する<騒音改善>

①
イベント時等むしろゴミカゴ等設置して分別啓発するのにも良い
種類別の別々カゴの設置

①
マナーアップ指導員の若返りと指導できる権限を与えて、マナー強化を図る
多摩川にBBC後の片づけが外から来た若者が出来ないのでは指導できない仕組み

③
玉川上水で祭りイベントを増やす
玉川上水と石川酒造・田村酒造場コラボ

駅舎に民間事業者を入れた駅舎作り
駅内名物保育園
居抜き

②
空家の活用
他の町の事例を参考にする
クリーニング屋の看板そのままに使用例

→飲食店の協力必要

④
空家
→若い起業家
に貸す!!

大気・水質に関する環境基準達成率はほぼ100%

道路騒音は一部で基準値を満たさない箇所がある

航空機騒音への不満は大きい
基地周辺で基準値を超過する地点が数箇所あり、状況にない。

玉川上水・熊川分水沿いの散策ルート化は、民地が多く実現可能性は低い

熊川分水は景観重要資源として指定し、地元と協力して保全・整備が行われている
市民団体と協働した学習機会

熊川分水、歴史・景観資源に関する看板の設置や景観保全に備え、木柵の設置がなされた
歴史・景観資源を活かしたツアーは、コロナ禍で一時的に減少しているが、R3にはガイド養成講座を数年以内に実施し、人材確保がなされている

このみのポイ捨てや歩行喫煙禁止などの対策への満足度は、比較的低い
屋外広告物への対応は、職員と市民が連立広告物撤去協力員として活動

→ポラントニアが活動
高年齢化が課題
ポラントニアを活用

事業者へのサポートを支援する
事業者への借入HPを作る
指導員を配置し、上喫煙を抑制
変化はない

→空家対策が必要

(5) 全分野共通

現状と課題

【ボランティア活動について】

- ・ 市内では各分野で多くのボランティアが活動し、環境保全・維持のために欠かせない存在となっています。
- ・ 地域での資源回収や清掃・美化は、町会・自治会が中心となって活動しています。
- ・ ボランティア全体が高齢化しており、近い将来は活動に必要な人数を確保できなくなることが懸念されます。**無償の活動に頼ることには限界があります。**
- ・ 町会・自治会の加入率は低迷しています。未加入者にとっては活動内容が分かりにくい、参加するメリットがない、組織が複雑、などの印象があります。**加入率が 30%前後と、加入していない市民が多くを占める中、町会・自治会のあり方も、将来にわたって地域コミュニティを維持するために必要な姿に変化していく必要があります。**
- ・ 現役世代は仕事・育児・介護で時間的な余裕が少なく、ボランティアや町会・自治会の活動に積極的に時間を割こうとする動機を持ちにくい状況です。
- ・ 小中学校、高校では教科教育において SDGs が意識されるようになっていきます。SDGs 達成活動に取り組む高校生グループもあり、若い世代での環境意識・社会貢献意識は高まっていると考えられます。

【環境学習・情報発信について】

- ・ 環境に関する情報の発信拠点として、現在は「川の志民館」と「くるみるふっさ」が主にその役目を担っています。
- ・ 川の志民館は、多摩川沿いというロケーションを生かして情報を充実させるポテンシャルはあるものの、スタッフが常駐しておらず対応ができていません。くるみるふっさはスタッフが常駐しているものの、駅から離れた立地のため、市外から訪れる人にとっては利用しづらい状況です。
- ・ **市内に多数存在する高度な知識・技能を持つ人材が可視化されていません。**環境リーダー登録制度も有効に活用されていません。
- ・ 市の情報を動画にして YouTube に公開する動きもあります。環境フェスティバルでも活動紹介や講演に動画配信が活用され、良好なコンテンツで再生回数を伸ばしています。
- ・ 若い世代では SNS の流行の変化が早く、あらゆるツールに対応するには限界があります。
- ・ 高齢者は広報や回覧板をよく見ており、ウェブを活用した情報には触れにくい現状があります。(回覧板は少し古い情報が回ってくるなど、即時性に課題がある場合もあります)
- ・ 環境学習については、学校ごとにテーマ・手法は異なるものの、児童生徒が地域の環境について体験する学習機会が設けられています。ごみ・資源については副読本やリサイクルセンターも活用されています。
- ・ 公民館でも環境学習講座が開講されています。限られた日時での講座で、平日／週末、日中

／夜間のいずれでも、参加できない層が生じてしまいます。行政からの情報提供も平日に限られるなどの制約があります。

目指したい姿

各分野の「目指したい姿」に同じ

これから必要な取組

【市全体(行政)の取組】

・ ポイント制度の導入により、ボランティア活動や環境学習への参加意欲を高める

(ポイント制度の概要)

- ・ 環境保全・改善に貢献するボランティア活動の実施、環境学習機会への参加を「ポイント」化し、スマートフォンのアプリまたはポイントカードで管理する
- ・ ためたポイントは公共施設の利用料金や、商店街での商品割引、他のボランティアサービスの利用などと引き換えることができる
- ・ 自発的行動を「一押し」してくれるインセンティブとなり、様々な活動への参加拡大が期待できる
- ・ 商店街や ECO FRIENDLY 認証店・団体などに協力店として関与してもらうことで、市民の環境行動を実践できる場が広がり、地域経済の活性化にもつながる
- ・ 新たなコミュニティ（テーマ型コミュニティ）の形成を目的とする
- ・ ポイントの対象となる活動の例（ためる）
 - ・ 資源回収への協力
 - ・ 協力店におけるリユース容器持参での買い物
 - ・ 公園の維持管理
 - ・ 樹林地の保全活動
 - ・ 地域の美化活動（清掃、ごみ拾い、花いっぱい運動など）
 - ・ 空家の管理状態の通報
 - ・ 環境フェスティバルへの出展、参加
 - ・ 環境学習講座への参加
 - ・ 防災訓練への参加
 - ・ リサイクルセンターの見学
 - ・ 個人対個人の生活支援サービス（庭の草取り、買い物代行、見守り、外国人住民へのごみ分別アドバイス 他）など
- ・ ポイントを利用できるサービス等例（つかう）
 - ・ 公共施設の利用料金（貸し会議室、体育施設等）
 - ・ 廃棄物処理券
 - ・ 協力店での割引

- ・ 個人対個人の生活支援サービス（庭の草取り、買い物代行、見守り他）など
- ・ 行動の種類・量に対する付与ポイント数の設定に際して、納得性を確保する必要がある
- ・ ポイントを獲得できる・使用できる場面が多いことが望ましいが、管理・運営が煩雑化する
- ・ 運営主体としては行政のある課・係が単独で担うのではなく、若者グループに運営を委託して、市・商工会などがサポートする形もあり得る
- ・ 市・事業者・市民（若者）を含む検討会を立ち上げ、対象とする活動の優先順位を設定しモデル事業から検討していく



図:ポイントシステムのイメージ

- ・ **市民も職員も「学び直し／リスキリング」が必要：環境の課題に対する知識・最新情報と、協働により環境保全を進めていくための意識・心構えやスキルを高めていく必要がある**
- ・ 環境に関する学習機会を拡大するため、次のような場づくりに取り組む
 - ✓ 公民館等で企画する環境学習講座は、学生や働いている人も参加できる曜日・時間帯に開催する、あるいは講座の様子を録画しておきオンデマンド受講できるようにする
 - ✓ 環境学習のための拠点を設置し、子どもから大人までが体験を通して学べる仕掛け、専門的な最新の知見の提供、学校の環境学習に関する相談受付などの機能を持たせる（身近な自然に関することから、気候変動の将来予測・リスクなども発信する）
 - ✓ 高度な専門知識・技能を持つ市民（環境リーダー登録制度も含めて）が情報提供、指導役として参画する
 - ✓ 「まちなか情報盤」としてコンパクトな看板を設置し、QRコードを読み取れば年間を通して動植物や歴史的な情報が得られるようにする（コンテンツづくりには専門知識を持つ市民が参加して情報提供する）
 - ✓ 若い世代をターゲットとする情報はSNSを活用し、上の世代向けにはケーブルテレビの番組枠、ラジオなどの手法をとる（ターゲット・情報に応じて発信する媒体をよく検討する）
 - ✓ かんきょう通信の発行頻度を増やす、または広報誌上にコラムのスペースを確保して情報発信の頻度を増やす

また、環境施策に限定せず、地域コミュニティの基盤として町会・自治会の存在は重要であると認識しています。町会・自治会を活性化するため、次のようなアイデアが出されました。

- ✓ 町会・自治会の必要性を議論する場が必要（従来の形式の維持には無理があることを認識する）
- ✓ 町会・自治会の認知度を向上するため、家族で参加できるイベントを実施する
- ✓ 子どもの短時間預かりサービスを導入する（日頃の近所付き合いがあることを前提に、ファミリーサポートより要件を緩めて利用しやすくすることで、加入のメリットとする）
- ✓ 見守り活動の実績や重要性を伝えていく
- ✓ 清掃活動や公園等の美化活動とあわせて収穫体験などの「おたのしみ企画」も抱き合わせて実施できるよう、地域内にフィールドを作る
- ✓ 地域固有の文化・芸能に関する活動を重点化し、魅力度向上につなげる
- ✓ 災害への備えとして地域コミュニティの重要性を強調し、周知する（参加したくなる防災訓練の工夫も同時に必要）

付録 市民会議メンバーからのメッセージ

市民会議のメンバーは、「福生市の環境を、より良い状態で次世代につなぎたい」との強い思いで集まりました。市民会議の総意として本提言に盛り込めたもの以外にも、各回の議論の中でそれぞれの持つ関心・思い・経験が多く語られました。ここに掲載するのは、各メンバーが市民の皆さんや市行政に伝えたいメッセージを、思い思いの形で表現したものです。市民会議のメンバーの熱い思いを受け取っていただける方が一人でも多くいらっしゃることを願っています。

氏名：池田昌三

タイトル：「市民と市役所の距離感を払拭し、福生市一体となり持続可能な環境づくり」

一般的に言われているのが「市民と市役所の間に距離感がある」「市民への情報提供が不十分である」という声は少なく無いのが実態であり、市民側も「市役所へは行政手続きが必要な時にしか行かないので、何をされているのかが分かっていない」などから、市役所に不信感があると感じております。

市役所では、窓口対応など市民の目線でのサービスが徹底され、多くの職員の方々は市民をはじめ外部の声を聞きたいと思っておられると、今回の会議に参加して感じました。

現在、各種イベントを市役所が主体となり設定・開催して頂き、イベント開催時は老若男女（若い夫婦の子供連れ）が集っておりますが、イベントの個別ブースを拝見すると「若返りが必要である」とも実感しました。

イベント開催の立案、運用方法検討、実行まで若者（高校生、大学生など）を交えて行い、イベントを開催しながら市役所と市民（まずは若者から）との距離感を払拭するとともに「市民と市役所が一体となりイベントを盛り上げる」ことから始め、段階を踏んで環境市民会議等、一緒に活動できる場に組み入れていくことで「福生市の市民・事業者・行政が共に考え、共に行動できる広場」ができていくのではないのでしょうか？

福生市の課題解決に、若者が取組（参画）ながら地域特性を活かした福生市の環境に配慮した「持続可能な街づくり」ができると考えます。

氏名：伊 東 静 一

タイトル：持続可能な福生市を願って

最近の「環境問題」としては、地球温暖化に伴う気候変動、そしてマイクロプラスチックや化学物質を含む私たちの生活領域からの環境汚染、そして最近人間の生活領域に侵入してきた野生動植物やウイルスなど、生物多様性に起因する問題などが日常的に語られていると思います。なお、SDGsという言葉によって、今まで関心を持たなかった世代や若い人たちにも身近な話題となってきたこと、そして特に若い世代の人たちの真剣な行動には、目を見張るものがありますね。

ところで、エネルギーと食料は、どの時代でも、だれにとっても最優先の重要課題ですが、可能であれば全て自給できる仕組みができると安心できますね。また、多くの地方自治体としては、少子高齢人口減少社会に対応する公共施設等総合管理計画による、公共施設の管理が当分の間の行政課題だと思われます。公共施設の管理の一つにある環境問題を面倒な行政課題と位置付けるのか、住民の参加と協働によって解決や解消しようとするのか、公共施設の減少や再編を定量的な視点だけではなく、定性的な枠組みの提示など、自治体としての姿勢が問われるのではないかと思います。

特に環境問題に関して住民自らが考えて行動するためには、学習環境の整備やファシリテートする人材も必要です。「自治体から措置されるのを待つ」という受け身の姿勢ではなく、今日では人生 100 年時代でマルチステージ化も進んでいることから、環境問題を知識として学ぶだけではなく「だれかのためになる」という、社会的な責任を担う行動を伴う学びの姿勢が問われているのではないかと思います。

これから 20 年先まで少子高齢人口減少社会は続くと想定されています。その先には Society5.0 で示されているロボットや AI が身の回りに溢れている少子社会になるとと思いますが、福生市が持続可能な都市として続いてほしいと願っています。

氏名: 岩尾 俊二

タイトル: 私たちの未来の世代に対して、少しでも希望の持てる環境を残すために・・・

今回、市広報の公募を通じて環境基本計画市民会議に初めて参加する機会を得ました

前々から地球の大気・土壌・海洋の変化については大いに関心を抱いており、殺虫剤、農薬類、除草剤による土壌や河川・海洋の汚染、CO₂・メタンガス等の温室効果ガス排出に伴う、地球の温暖化と海洋の酸性化、世界中での急速な森林喪失に伴う、CO₂ 吸収能力の急速な低下や生物多様性の脅威は、私達が未来の世代に対する環境責任を無責任に放棄、ないしは快適で安穏な生活スタイルを無自覚なままに続けてきた結果であろうと思います。

福生市環境基本計画は、20年振りに改定期を迎えているそうです。私を含め、一般市民の声をこの計画改定に少しでも反映させたいという想いから市民会議の活動を行ってきましたが、考えれば考えるほど課題は山積の状態であり、解決への道は遠く狭いものに思えます。

「環境」は一世代の間に変化を実感することが極めて困難ですが、100年～数百年のスパンでは、驚くまでの巨大な変容を伴うものです。私達の一人一人が今できることからすぐに着手して、ようやく数世代～10数世代先の子孫達にとっての地球環境への影響効果が現れると言った性格のものです。ICPP や各国政府の掲げる 2050 年の CO₂ 削減目標も決して容易く達成できるものではないと思いますが、例え達成できたとしても、例えば海洋の温度上昇は既にその後数百年は継続すると考えられています。と言うことは、私たちが昨今身近に目にする梅雨時の集中豪雨、台風に伴う豪雨被害なども同様で、今後もずっと未来まで頻度を増して人類を苦しめることは確実です。

この市民会議への参画を契機に、環境に関わる様々な書籍を読み、多くの講演会・シンポジウムにも参加したくさんの学びを得ることができました。もちろん、他の市民会議メンバーの皆さんからも多くの学びがありました。今後は市の改定計画に基づいた計画遂行に期待することは勿論ですが、それ以上に私達自身が市民の皆様と共に一層環境を考え、より良い未来の実現に向けて自ら行動して行くべきと考えます。

氏名:大井翔子

タイトル:福生市を脱炭素先行地域に！

今回光栄なことに、福生市環境基本計画策定のお手伝いをさせていただきました。私は現在【再エネ×地域】を掲げながら、西多摩のエネルギー地産地消とずっと暮らしていきたいまちづくりを目指し、仕組みづくりや地域住民と地域活性化イベントを催すなど、環境問題を皆さんの身近なものにすべく日々活動しております。

近年の異常気象を見て、不安にならない方は恐らくいないと思います。ましてや、子育てど真ん中世代の我々は、将来の子どもたちが健やかで幸せな人生を歩めるのか…ハッキリ言って疑問しか湧きません。ニュースを見ても列島各地災害が爆増していますし、亜熱帯でしたっけ？と疑いたくなるような灼熱地獄、物価は恐ろしく上昇し、家計を預かる者なら誰もが光熱費の呪縛にうなされているのではないのでしょうか。それが今の日本の現状です。

環境基本計画の改定に向けた提言をまとめることで、福生市民の有志で考え、非常に多くの気づきをいただきました。福生市だけでは難しい環境配慮行動や取り組みも、多くの自治体が連携して寄り添い、助け合うことを西多摩の市民は望んでいます。行政と民間事業者とがタッグを組み、有望な若者を積極的に登用する！そんな開けた地域に福生市が生まれ変わればもう自慢物です。環境活動が呼び水となり「福生市において！」そんな声が溢れたらとても素敵ですね。福生市は近隣自治体を先行してF-eや今回のような環境基本計画に市民の声を入れるなど、環境政策課様を軸に置き、積極的に動かれ本当に素晴らしいと思います。

そんな福生市の次なる目標はズバリ”東京都初の脱炭素先行地域に選定されること”ここに尽きるではないでしょうか。人口流出を防ぎ関係人口（税収）を増やす。関係人口増を達成されている地方自治体は、どこもカーボンニュートラルやゼロ・ウェイストなど、環境課題に力を入れている印象が強いです。環境・教育意識の高い世帯ほど動くこと（移住）を厭わず、また世帯収入も高い。そして移住者が多い地域は街並みも面白く美的センスに溢れています。ぜひ、そんな魅力あるまち”福生市”を行政と事業者と市民協働で作りたい！そんな気持ちでいっぱいです。

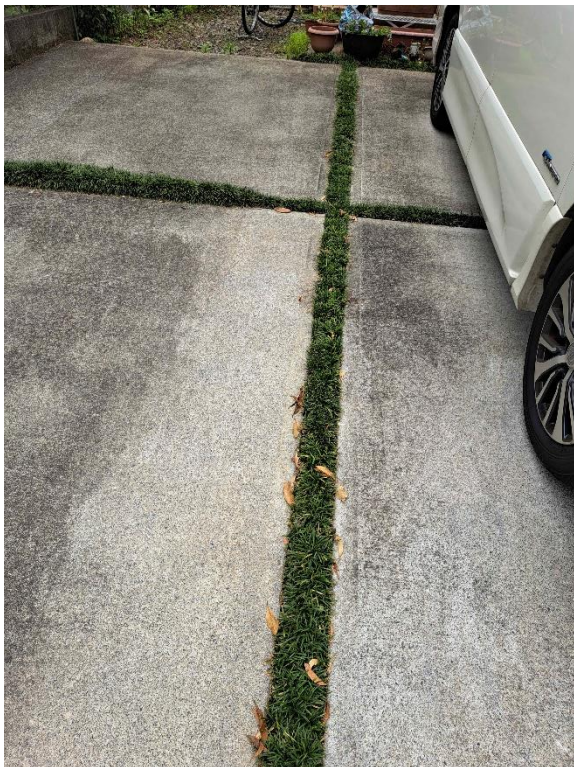
将来の子供たちのために今大人たちができること…ぜひ一緒に実現させませんか。

氏名：砥綿潤

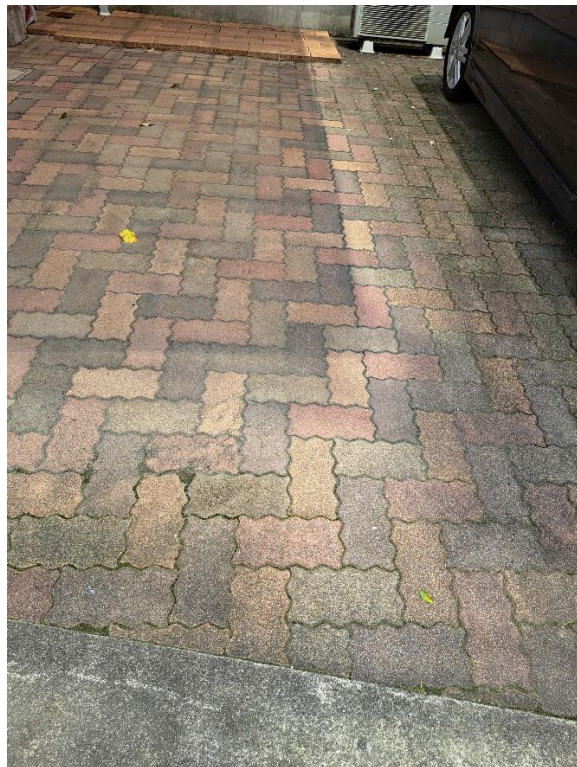
タイトル：地下水の涵養

今回、我々が作成した「市民提言」の中に、【市民・市民団体の取組】として「雨水が浸透するような土地の使い方を意識する」ことを掲載しました。管理の観点から、市内でも全面をコンクリート等で覆ってしまうが増えています。雨水などを地中に浸透させること（させられる環境を作っておくこと）で、水資源の確保及び洪水の防止等にもつながります。

行政には行政のできることを、事業者には事業者のできることを、そして市民の我々は我々ができることをそれぞれが行うことが、これらかの福生の環境を守ることにつながるのだと思います。



（スリットのある駐車場）



（インターロッキングで敷き詰めた駐車場）

氏名：中 村 幸 一

タイトル：住み良い福生の環境づくりを推進したい

私は福生で生まれ、終戦翌年に小学校へ入学しました。

そして、現在も福生市で生活するチャキチャキの福生っ子ですが、80年以上も住んでいるのに福生の事をあまり知らないで生きてきました。

今回、縁があって自宅に届いた「環境に関する市民アンケート」に同封されていた「これからの福生の環境について、一緒に考えてみませんか？」というチラシに惹かれて、これではいけないと環境基本計画市民会議に応募することにしました。

初めは難しい表現や専門用語が多く大変苦労しましたが、他のメンバー（や事務局）の方に助けられながら今日に至っております。

会議を重ねる度に、地球温暖化や気候変動等、世間で話題になっている環境問題から、多摩川や玉川上水・分水、町会・自治会による資源回収や地域の公園、横田基地に係る問題等、生活の近くにある課題にも触れ、どんどん興味が湧いてきました。

解決に向けては「いつまでに」、「誰が」、「どうするのか」などを決めていかなければいけませんし、その動向や結果の確認、そもそも予算はどうするのかなど、考えなければいけないことがたくさんあることも分かりました。

今後もできる限り活動に関わり続け、住み良い福生の環境づくりのために行動していきたいと思っております。

氏名: 双木 邦夫

タイトル: 福生市環境基本計画に基づく、目標実現に向けて

(1) 環境基本計画市民会議への参加について

退職後は、社会との関わりも少なくなり、演奏活動（2つのアマチュアバンド）と登山グループに参加する程度でした。福生市との係わりは、福生市民会館でソロ演奏するぐらいでした。町内会（加入はしていましたが）の行事に参加することにより、近所との付き合いも増え、環境に熱意のある方の薦めで環境市民会議などに参加することになり、多くのことを教えていただきました。今回、環境基本計画市民会議に参加して、多くの分野での「現状の課題」と「改善策」などを話しあい、改めて環境の大切さを認識しました。

(2) 実現に向けた活動について

環境基本計画が出来上がったあかつきには、多くの事項が盛り込まれ、立派なものになっていると思われます。この中から、市民に伝えたい情報、市民に実施していただきたい事項をPR。

福生市は「環境フェスティバル」、「環境に関する講演会」、「環境施設見学」など、立派な活動を行っていますので、より周知がされるPR方法が必要だと思います。

「環境広報」の発行

市民への情報伝達として「広報ふっさ」、「福生市ホームページ」、「YouTube」、「町内会回覧板」などがあげられます。

ある程度、見ていただいていると思いますが、出来れば「環境広報」として環境に特化し、身近な内容を記事にした広報を発行することも要検討と思います。

例)「省エネ」など市民に有益な情報を載せるなど（発行までの編集が大変ですが...）

町内会の活用

福生市は災害が少ない地域と思いますが、今後、思わぬ災害あった時、町内会加入者による、いざという時の助け合いが必要だと思います。課題は、町内会の加入者/加入率が、減少傾向と聞いています。福生市周辺地域の市町村も同様に減少傾向と聞いています。

「町内会」、「自治会」、「老人会」の役割を見直し、メリットを明確にして加入者を増やすことが必要に思います。

現状、若い世代から見ると、会費を払っても目先のメリットがないと思われます。災害の時はメリットがあると思いますが...

(3) その他（新技術の把握など）

環境の最新状況の把握

「エコプロ」という環境に関する展示会が毎年開催されています（令和4年度の開催場所はビッグサイト）。企業や大学などが出展、環境に関する取組みの説明などを行っております。

環境に興味ある人は、ぜひ行ってほしいイベントです。

新技術の把握

読売新聞（9/3）に「海に残らないプラスチック」の記事が載っていました。

微生物を埋め込んだ海洋生分解性プラスチックの開発に成功、海で分解されるのに通常8年が1年に短縮（実験結果）。群馬大などの研究グループが開発に成功、実用化が望まれる技術です。

氏名:古山幸司

タイトル:第2次福生市環境基本計画市民会議に参加して

1962年に福生町で生まれて、29歳まで福生市で暮らして、1992年に結婚と同時に鹿児島市へ転勤。その後、名古屋市、小金井市、静岡市、福岡市、そして小金井市に戻って23年間を過ごしました。人に恵まれ、住めば都でどこも素敵な場所でした。2015年に福生市に戻り、60歳の定年を迎えた際に、何か福生市に関わる活動がしたいと思ひまして、この市民会議に申し込みをしました。

定年後も引き続きほぼ同じ業務を行っていますので、平日に開催される会議には休暇を取っての参加となりました。業務の調整などで苦労もしましたが、環境政策に関する最新動向、福生市の現状や取り組み、市民の皆様のアンケート結果などのレクチャーをいただき、新たな知見を得ることができました。また、それ以上に市民会議の皆さんとのディスカッションによって、知見の幅を広げることができて、大変有意義な時間を過ごすことができました。

今回、討議した内容は資源循環、生物多様性・自然環境、気候変動・エネルギーなど、個人レベルではどうにもならない問題が多かったです。おそらく、福生市や東京都でも解決しない問題も多々ありました。それでも討議を続けると知らないことを知識として身に着けることができるようになりました。まずは各個人が知って「自分ごと」と考えることが第一歩であることを学びました。

行政の皆さんには、「多摩川は国の管轄だから・・・」「東京都が・・・」と、できない理由を見つけるのではなく、まずは福生市民に「自分ごと」と考えさせる施策を検討いただきたいと思います。

自分としては、我々が作成した市民提言の内容を、今回改定する計画に少しでも盛り込んでもらえればと思っておりますが、特にお願いしたいのは、後半部分に記載した「(5) 全分野共通」という項目の内容です。ここに掲載した内容ならば、福生市民、福生市役所、各町会・自治会、商工会、次世代を担う若者まで巻き込める内容です。ぜひ、ここからスタートさせて、福生市の環境を市民全体で「自分ごと」と考えられる「第2次福生市環境基本計画」を作成していただきたいと思います。

氏名: 正木直美

タイトル: コミュニティの力で市民による温暖化対策を推進

連日の猛暑や大型台風など、深刻さを増す気候変動の影響を身近に感じる人は多いと思います。

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）によれば、人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がなく、これからの数十年の間に温室効果ガスの排出が大幅に減少しない限り、21世紀中に地球温暖化は産業革命後から 1.5℃及び 2℃を超える、とのこと。それは我々の生活おけるリスクが増えることを意味します。

私が福生市の環境基本計画市民会議の活動に参加したのは、地元自治体の環境政策・方針について知りたかった、そして市民が貢献できる事と方法は何か議論し、考えたかったからです。

温暖化は地球規模の問題なので、すぐに個人が出来る環境活動につながりにくいと思います。その時に市町村自治体の役割は大きく、限られた資源の有効活用の仕組みづくりや環境啓蒙活動を通じて、住民による温暖化防止対策への貢献につなげることが出来ます。

今回の市民会議活動では、地域の環境問題解決にコミュニティの力が大切であることがわかりました。コミュニティの結束が強いエリアは、正しい廃棄物の分別ができていて、資源のリサイクルにも役立ち、結果として温暖化ガスの排出抑制になります。

20年ぶりの環境基本計画の見直しの結果が、さらなる市民全体の環境活動強化につながるように、引き続き福生市役所の関係者皆様のご指導と多くの市民の協力が必要です。また、自分としても福生市の豊かな自然を保全するために出来る事を考えていきたいと思っています。

氏名：山本 忠

タイトル：2050年に向けた福生市の持続可能な都市の実現（願望）

福生市に暮らす上で、現況の長所と懸念材料を次のとおり整理してみました。

強み（長所）

- ①福生市への交通機関とアクセスが良い
- ②5つの駅に囲まれたロケーションに存在し、移動の利便性に優れている
（拝島駅、牛浜駅、熊川駅、福生駅、東福生駅）
- ③時代が流れても水温を感じる
（多摩川、玉川上水、熊川分水、）
- ④景観豊かな風景と公園が多く、自然との共生が存在する
- ⑤外国人が多く暮らす異国情緒の街並みを残す
- ⑥福生独自の歴史・文化の建造物・神社が見られる
（石川酒造、田村酒造、旧ヤマジウ田村家、アメリカンハウス、熊川神社と七福神、福生不動尊、清岩院等）
- ⑦伝統の祭りが残る
（桜まつり、ほたる祭、夏祭り、七夕まつり、横田基地日米友好祭）
- ⑧子育て支援が比較的に厚く、教育環境も整備されつつある
- ⑨スポーツも文化活動も盛んである

弱み（懸念材料）

- ①横田基地が存在する
- ②高齢化率がますます高まる
- ③人口減少が続いている
- ④中堅以上の企業が少なく、働く場所が少ない
- ⑤農地が少なく地産地消の展開ができない
- ⑥商店街の疲弊が目立ち活気がない
- ⑦空き家が増えている
- ⑧町会・自治会の加入率の低下と高齢化により、従来の活動が出来ない状況が増加
- ⑨ボランティア活動の継続が難しくなっている

私は福生市に定住し55年が過ぎましたが、生活する中でこのまちが大好きになりました。横田基地があり悪いイメージでしたが、自然環境に恵まれたまちであることを知り、子供たちと自然への触れ合いを大切にしてきました。自ら活動することで自然との共生で成長することも体験しました。

しかしながら社会環境の急変で、これまでのような従来の延長では、生活の進展も期待できないような厳しい現況下だと思います。2050年に向けて、望むべき「未来の福生市」を実現するため、次のとおり戦略についても考えてみました。

戦略

◆ロケーションを活かした、まちづくり

- ①商業区域：福生駅エリア、商店街
- ②文化・音楽・アート区域：牛浜駅エリア、文化の森、福生公園・どんぐり公園、中央図書館、市民会館等施設
- ③自然環境を生かした区域：多摩川と中央公園、柳山公園、加美上水公園、かに坂公園エリア（植物、野鳥観察、散策路、植物工場）
- ④横田基地、16号商店街：異文化と異国情緒の触れ合い、海外の発信基地
- ⑤福生・熊川の和文化を楽しむ散策エリア（神社、お寺、酒造会社等の施設）

◆地球温暖化推進センターの設置：気候変動、災害対策

◆環境学習センター・施設の整備：ほたる公園、下の川せせらぎ遊歩道公園

◆野外スポーツセンターの整備：福生南公園

◆移動は巡回小型自動車を活用、自転車の有効活用を促進（道路整備促進）

◆デジタル田園都市国家構想戦略を取り入れたDX化の推進、デジタル人材の強化と市民活用の活性化

◆市・事業者、市民代表による「エコシティ福生の実現プロジェクトチーム」による推進、実現

◆市の基本構想と指針・戦略の明確化と財源の確保



緑と水溢れるエコシティ福生
～デジタルテクノロジーを駆使した安全・安心のまちづくりで発展！～

